第１章　北上市多文化共生指針の策定にあたって

１　策定の趣旨

日本で暮らす外国人住民は、200万人を超え、近年急激に増加しています。

日本人の少子高齢化に伴う国内労働人口の減少や経済のグローバル化に伴う国内の雇用環境の変化により、外国人住民の定住化、永住化は今後も続くものと予想されます。

日本政府は、従来の「国際交流」「国際協力」を柱として推進してきた国際政策に「多文化共生」を３つ目の柱として位置づけ、平成18年に「地域における多文化共生推進プラン」を策定し、地方自治体に対しては、地域の実情と特性を踏まえて、民間団体等との連携・協働により、多文化共生の推進に係る指針を策定するよう促しています。

現在、北上市内に約400人の外国人住民が生活しており、企業誘致等によりさらに増加する可能性があります。また、さくらまつりや夏油高原スキー場などに多くの外国人観光客が訪れています。

外国人は日本の言葉、文化が十分に理解できず、不安を抱え、日本人は外国人とどう接していいかわからず、どう受け止めたらよいか戸惑っています。

今後、ＩＬＣ(国際リニアコライダー)※の実現も見据えながら、外国人、日本人がお互いに理解しあい、より快適に生活していくためにはどうしたらよいのか考え、市として進むべき方向性を定めるため、北上市多文化共生指針を策定しました。

※　ＩＬＣ(国際リニアコライダー)…全長31kmから50kmの地下トンネルに建設される大規模研究施設。大型の線型加速器としては、世界最高・最先端の電子・陽電子衝突型加速器です。この施設が北上山地の地下100mの場所に建設される計画があります。

２　指針の位置づけ

北上市総合計画に定める多文化共生について取り組みの方向性を示すもの。

３　対 象 期間

平 成28年度から37年度(10カ 年)

※ 中 間 年である５年目で見直しを 行 います。

(参 考)

●外 国 人 住 民 登 録 者 数の推移

各 年12月 末 現 在(単位: 人)

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
北 上 市	499	435	447	453	424	459	420	419	380	414
岩 手 県	6, 472	6, 359	6, 404	6, 210	5, 942	5, 267	5, 298	5, 377	5, 621	5, 863

(岩手県「外 国 人 住 民 登 録 国 籍 ・ 市 町 村 別 人 員 調 査 表」)